資料１－１

令和６年12月５日
日本学術会議提出資料

# 第７期科学技術・イノベーション基本計画に向けての提言（概要）

# 第７期科学技術・イノベーション基本計画に向けての提言（キーメッセージ）

予見困難な変化に対してレジリエントな社会を構築するためには

- 迅速な意思決定とフレキシブルな研究を可能にする環境
- イノベーションを生み出す基本的な研究力の強化
- そして未知の価値をも包み含む人類の知識の総体（body of knowledge）が必要

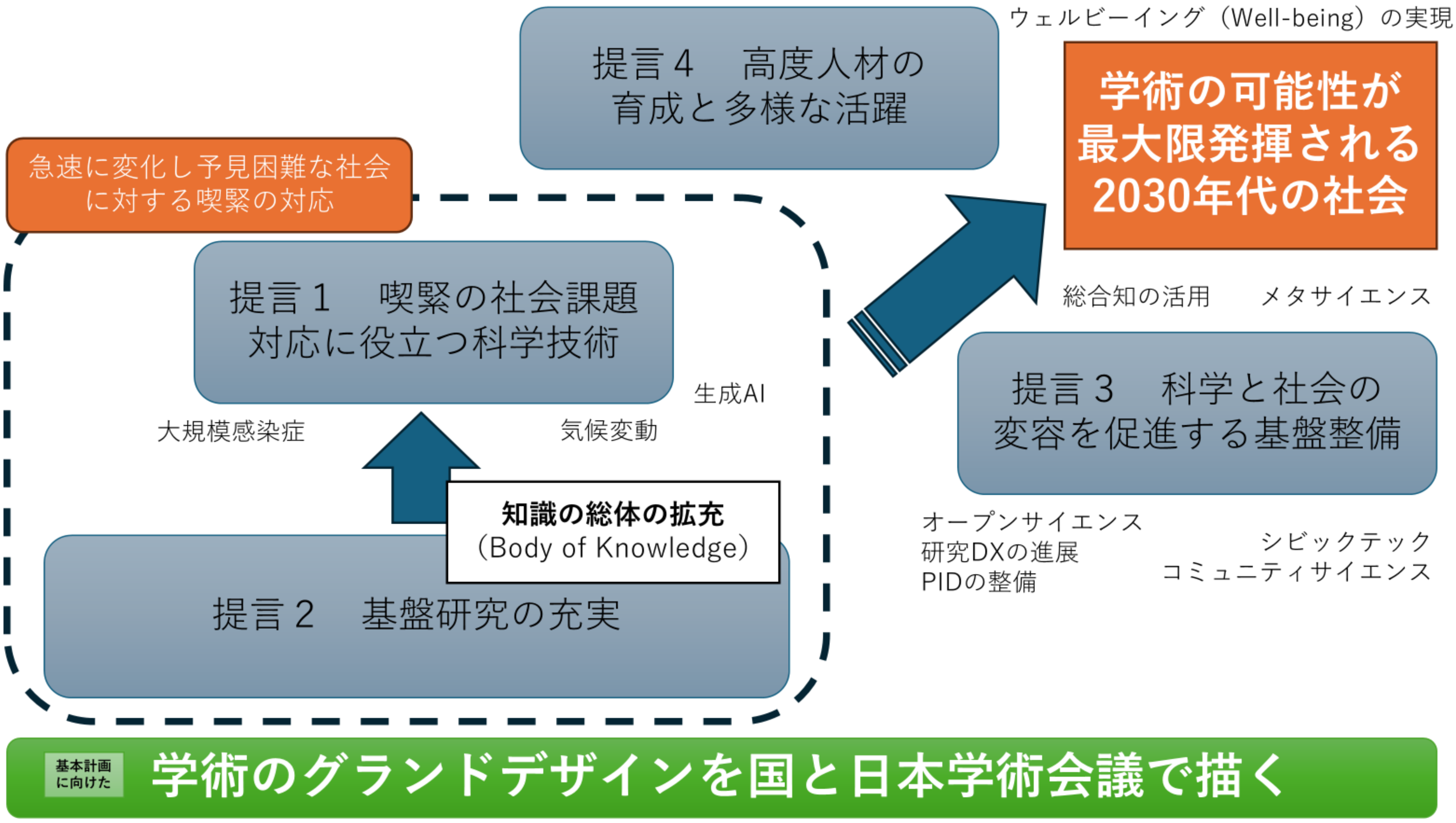
# 提言

提言１　大規模感染症や気候変動、超少子高齢社会などの喫緊の課題及び生成AIの発展を含むデータ科学の進展がもたらす社会の急速な変革に対応する包摂的な科学技術・イノベーションを可能にする制度や取組の実現

提言２　喫緊の課題解決に資する研究に加え、基礎的・伝統的な研究分野を含む広範、かつ、多様な研究分野を支援し、知識や技術の継続的な蓄積による研究力強化

提言３　公共財としての知識・データの蓄積と開放を促し、データ科学の更なる展開による新しい科学とイノベーションへの対応

提言４　多様なキャリアをもつ高度人材の育成をあらゆる領域で支援するとともに、そういった人材が様々な場所で専門性を発揮できる仕組みの強化



ウェルビーイング（Well-being）の実現
提言４　高度人材の育成と多様な活躍
学術の可能性が最大限発揮される2030年代の社会
急速に変化し予見困難な社会に対する喫緊の対応
提言１　喫緊の社会課題対応に役立つ科学技術
総合知の活用
メタサイエンス
生成AI
大規模感染症
気候変動
提言３　科学と社会の変容を促進する基盤整備
知識の総体の拡充
（Body of Knowledge）
オープンサイエンス
研究DXの進展
PIDの整備
シビックテック
コミュニティサイエンス
提言２　基盤研究の充実
基本計画に向けた
学術のグランドデザインを国と日本学術会議で描く

# 今後の展望

　第26期日本学術会議においては、生成AIや気候変動問題等の喫緊の課題を中心に提言等の準備が進められ、本提言において一部それらを予告し連動する形となっている。社会における情報の統合利用や複合利用が加速していることを踏まえ、今後、本提言及び今後の提言等をネットワーク化したパッケージとして見立て、日本学術会議の包括的なメッセージと捉えていただくことを期待する。